

風のように



甘木教会

主任牧師：白川道生

牧会委嘱牧師：竹田孝一

モーセは死んだとき百二十歳であったが、目はかすまず、活力もうせてはいなかった。 申命記34:7

すると、「これはわたしの子、選ばれた者。これに聞け」と言う声が雲の中から聞こえた。その声がしたとき、そこにはイエスだけがおられた。 ルカによる福音書9：35－36

【説教要旨】

主の変容した記念として、教会でも大変に特異な主日を守っています。イエスさまと共に大預言者であるエリヤ、モーセが出てきます。それを見た弟子、ペテロ、ヨハネ、ヤコブにとって、至福のときであったに違いありません。素晴らしい出来事のなかでこれをどうにか自分たちで受け止めて、なんとか自分たちの気持ちを表したいと思うのはごく自然なことです。

33節の「先生、わたしたちがここにいるのは、すばらしいことです。仮小屋を三つ建てましょう。」ということは、心からの弟子らの感動した気持ちであり、言葉です。さらに彼らの気持ちが正直に書かれています。「ペテロは何を言っているのか、分からなかったのである。」と。今、自分の前に起きているあまりにもすばらしい出来事にどう受けとめてよいの分からずにいる彼らの混乱の様子が伝わってきます。

では、私たちは、この記事をどう受け止めていけばよい

のでしょうか。

神に対してどんなすばらしい行為であっても、私たちの人生においてなすことは、何か行為をもって神へ、キリストへ答えるのではないのです。

ペトロがこう言っていると、雲が現れて彼らを覆った。9:34

私たちの行為をもってしても、神の素晴らしいわざを留めておくことは出来ないのです。いや、私たちの行為は消え去っていくのです。

「これはわたしの子、選ばれた者。これに聞け」

何かをするのではなく、「聞く」ということです。だれに聞くか、それは「わが子、選ばれた者」、つまりイエス・キリストに聞くのです。

聞け、イスラエルよ。我らの神、主は唯一の主である。あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。申命記6章4節

「聞け、イスラエルよ。」という「**シエマー・イスラエル**」という言葉はユダヤ人にとって、とても大切なことですから、弟子らは「**これに聞け**」という言葉聞いたとき、「**シエマー・イスラエル**」という言葉思い出したかもしれません。今、私たちは、「**シエマー・イエス・キリストに救われた者よ**」という神の言葉を聞くのです。申命記はさらに「**子供たちに繰り返し教え、家に座しているときも道を歩くときも、寝ているときも起きているときも、これを語り聞かせなさい。更に、これをしるしとして自分の手に結び、覚えとして額に付け、あなたの家の戸口の柱にも門にも書き記しなさい。**」

どんなときも、どんな場所でも、つまりこれは全存在をかけて、イエスの言葉に聞いていくということです。聞いていく徹底こそ、イエス・キリストによって自分の生活を形作られていく出来事が起こります。

その声がしたとき、そこにはイエスだけがおられた。9:36

イエスに聞くところ、ここにイエスだけおられるのです。

私たちの信仰の道は、イエス・キリストに聞いていくことです。そこには**イエスだけがおられた**という信仰の恵みをいただくのです。イエスさまがおられるという信仰の事実が、この世の諸々の力に勝って、死の恐れさえ克服する力となり、私たちを、世界を変えていき希望を与えてくださいます。私たちに必要なことは、**イエスだけがおられる**ということなのです。

では、**イエスだけがおられる**というイエスさまはどのようなイエスさまか。それは十字架にかかられたイエスさまです。十字架に架かられたイエスは、試練を受け、軽蔑を受けます。無力でした。無力のうちにこそ神が働かれ「無から有」を呼び起こしてくださいます。十字架のイエスさまに神の力が、栄光があったのです。

モーセは死んだとき百二十歳であったが、目はかすまず、活力もうせてはいなかった。

どんなに元気であって、長生きしても、死の前にモーセは無力でした。この無力さこそ**目はかすまず、活力もうせてはいなかった**という人を越える力の事実が示されるのです。

変容主日後、灰の水曜日になり、四旬節、受難日となっていく。イエスだけが**おられた**、十字架かかられたイエスさまだけが**おられた**のです。

ルターは次のように話しています。「この方のうちのみ、神のあらゆる徳は満ち、この方から離れては、神を見いだすことも出来ないし、お会いすることも出来ないからである。ただ、この方のことばを聞き、この方のみわざを見る時にのみ、神のまことのことばとみわざを見聞きしているのだ、と。」

「**これに聞け**」と。イエスさまのお語りになる言葉に私たちはますます耳を傾け、この世のうねりに合って消されることない**真実なイエスさまだけが**おられる、ここに私たちの歩みが確かなものとされていきます。

牧師室の小窓からのぞいてみると



古いリベラルな者にとって、トランプ大統領の政策「アメリカ第一主義」は、民主主義の世界の秩序を壊す悪魔のような政策しか見えてこない。

選挙という民衆主義的方法で選ばれたことには違いはない。しかし、共産主義であっても、選挙があり、ここから選ばれてくる。一党独裁、それに近い一党のみという仕組みがあって選挙が行われている。民主主義を自分たちは体現していると豪語する。選挙が民主主義を保証するものでない。では、民主主義とは何であるかということを経済社会は問われているのではないだろうか。

少なくとも多数者が少数者の意見に耳を傾け、少数者を決して、無視、弾圧しないという良心にかかっているという事かもしれない。今の時代こそ近代を生んだルターが大切に「良心」ということを問いなす時代はないと思う。



園長・瞑想？迷走記

今回初めて、保育内容の内部評価委員会を行った。その過程で園の教育保育内容、運営についてのアンケートもとった。

また、自己評価委員会を開き、教諭の自己評価をも行った。そして丁寧に評価を受けて、次年度の保育の取り組みについても個人面接をしてきた。これからは、保育の振り返り、保育内容を深く理解し掘り下げて欲しいからである。保育内容の自己評価の機会は自分を知り、次へと向かう良い時となることを願ってやまない。

今、園の中心にいる園児は、社会の大きな変化の中で、小さいながら大きく揺り動かされている。また保護者も同じである。その中で、最も大切な時期にどう教育・保育をしていくかは大きな責任となっていることは当然である。私たちは自分自身を問い、深く足元を掘り下げていくことが大切だと思っている。

『教会の暦』 灰の水曜日から四旬節へ



四旬節は、復活祭の前の40日間（四旬）の期間で、灰の水曜日といわれる日から始まります。

灰の水曜日は、前年の「棕櫚の枝の主日」の棕櫚を燃やして、その灰で額に十字を塗って、私たちが土から造られ、土に戻るものであることを覚えるのです。牧師は額に十字を書くとき、「あなたは塵であるから、塵に帰ることを覚えよ」ということを唱えます。灰はこの世のはかなさを意味します。どんな人も死のみが残るのです。ただ一握りの灰だけが私たちなのです。私たちは死へと向かいます。全生涯をかけて死ぬことを学ぶのです。しかし、死の学びは、真実に生かされることの学びであり、恵みであるのです。「灰の水曜日」にこのような思いをもって臨むことは中世以来行われてきた大切な伝統です。

「灰の水曜日」前の3日間は、春の祭り（カーニバル）が盛大に開かれます。有名祭典がブラジルのリオのカーニバルです。四旬節に入る前に春の祭りが行われるのですが、四旬節に入るとクリスチャンは受難日、復活祭にむけての信仰の整えをしていきます。

40日間が四旬節であると決められたのは、8世紀ぐらいですが、「灰の水曜日」は6世紀のゴール教会に由来するもので、はじめは重罪を犯した人の告解にあたって行われる悔悛のすすめの行事であったが、後に四旬節のスタート日になったのです。

この日から聖壇の掛布、牧師のストールは紫になり、礼拝中のハレルヤは消えます。讃美歌も静かな曲になります。聖壇の花も飾られなくなります。

四旬節は信仰の熱意が冷めたことを後悔し、神の赦しと導きを祈ります



甘木通信

出生率72万988人 9年連続減少

さらに死亡された方161万8684人で、過去最多となり、自然減は89万7696人となり、これも過去最大となった。つまり、出生率の減少し、死んだ方との差し引きで、57万1702人の人口減少が起きて、この人口減少は、確実に日本が国力を落としているということだろうか。

小峰隆雄さんが、「人口問題への取り組み(4)人口減少と国力(日本経済センター)」が同じような疑問を持たれていることを読みました。

「そこで、現代の経済社会にふさわしい 21 世紀型総合国力を工夫・計測している。まず、総合国力とは、国が何らかの目的を成し遂げる能力だと考える。この場合の国というのは、必ずしも中央政府だけではなく、地方政府、企業、非営利組織(NPO)、市民など多様な主体を含んでいる。そしてその能力として、国民一人ひとりの生活、福祉を高める『市民生活向上力』、企業が高い競争力を保ち、積極的に付加価値を生み出していく『経済価値創造力』、国際社会の中で世界に貢献しつつ、自国民の利益を高めていく『国際社会対応力』という三つを考える。さらにこれらの能力は人的資源、自然・環境、技術、経済・産業、政府、防衛、文化、社会という8つの基礎分野から構成されると考える。以上のように概念を整理した上で、これを日本、米国、カナダ、英国、フランス、ドイツ、イタリア、中国、韓国の9カ国について指標化したのである。』」とトータルに見ていく必要があると言う。私も落ち着いて見ていった。

(甘木日記)土)いつものように甘木教会へ。疲れ気味だが、明日を考えると掃除をする。真向いのおばあさんから温かい焼き芋をいただく。感謝。日)礼拝引退されたu牧師が出席される。長いお付き合いで、出身教会が同じ。良き時だった。月)T牧師が訪ねて来て下さる。こんな嬉しいことはない。火)幼稚園の諸事務を処理していると水)待つ日。木)レンジで弁当を温める。金)幼稚園の遠足で同行。障がい二人を寄り添う。疲れる。老いた。

おまけ・牧師のぐち (続日記) 牧師だって神さまの前でぐちります。ぐちらない聖人(牧師)もいますが。

土)いつものように甘木教会へ向かう。今週は羽村幼稚園での自己評価委員会、理事会の準備などで少々、無理をしたようで疲れを覚える。花の苗を植えながら癒しを受ける。これを支えてくれる妻も同じ歳、疲れは同じだろうと心配する。日)いつものように起きて、いつものように甘木教会の庭を掃除する。いつものように礼拝を。今日はお世話になったK牧師が来てくださった。年月の流れの話をしながら楽しむ。月)牧師会の自由時間にわざわざ

若手のT牧師が来てくださる。彼の車で朝倉の中村哲さんが

ヒント得て、アフガニスタン取り入れた山田堰に行く。またs牧師のご先祖が命がけで作った山田堰に行く。最後に3連水車を訪ねる。久しぶりの良い1日となった。これからの牧



に気持ち師たちの

働きは闇の中を手探りの日々だろう。次男が誕生日。二人の親になろうとしている。もっと私が親としてしっかりしていればと反省ばかりである。父から引き継いだ子どもへの勉強の機会だけは彼らが苦勞しないように作ったつもりだ。そろそろ終わりにしたいが怖いものがある。火)休日の後の幼稚園出勤はどうも体が動かなくなった。振り返ってみると前任地は園舎と自宅は同じ建物で楽であった。しかし、若い牧師はそれを嫌う。時代かもしれない。職員の個人評価の最終評価をしなくてはいけない。一人一人時間をとって評価を運営委員長とする。当然だが、次へと向かうものした。水)職員が忘れ物をしたというので、取りに来るといっているので待つことにした。それまでの時間、庭掃除をして待つ。これも良し。木)昨日、庭掃除の三分の二を終えていたので、朝の掃除が助かり、花壇の手入れが出来た。事務処理、事務処理を早急にしたり、園児の世話をしたり、弁当の温め、あっと降園時間になる。金)幼稚園遠足で同行。天候の不安定さで、急遽、行く場所を変更する。(私としては変更する必要はないと思うが、まだ一年目、ここは・

・)しかし、なんで濡れること服を着替えることを気に理解できない。「ペンギンくん『もう少しで、幼稚園とね。頑張ったね。おめでとございます。』」『ん。日本語の分からないところで、日本に来て友だちに助けられて楽しく遊べるようになったよ。『頑張ったね』」

